

工事用臨時列車について

▽工事用臨時列車とは
古くなったレールやバラストなどを新しいものに交換するために走る列車のことです。よく「工臨」と呼ばれます。

▽関西圏で走る工臨の牽引機

- ・ DE10
- ・ DD51
- ・ EF65
- ・ EF81

等が工臨の牽引を担当することが多いです。

▽工臨の魅力

「普段走らない列車が走っている」というところに魅力があると思います。
レールを交換する現場を実際に見た時には、普段当たり前のように走っている鉄道が、様々な人に支えられて動いているということを実感しました。

▽工臨、現場での作業
レールやバラストを交換する現場には大抵の場合、深夜に到着します。レールはおよそ数十分〜1時間というわずかな限られた時間で作業員によって交換されます。

▽工臨の今後

関西圏の工臨は現在「チキ」という形式の貨車にレールを載せ、牽引機に引張ってもらう形で走っていますが、「東海や東日本ではこの「チキ」の老朽化により、新しい車両への置き換えが始まっています。もしかすると、関西圏から「チキ」がなくなってしまうのも時間の問題かもしれません。

ちなみに、現在「東日本では「キヤ195形」、
「東海では「キヤ97形」という、機関車を必要とせず、自力走行が可能な車両が使われています。

▽最後に
実際の工臨の写真を載せておきます。どうぞご覧ください。

最後まで見ていただき、ありがとうございました。

